

# 2020年度 事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

コロナ禍に翻弄された 2020 年度は財団にとっても多くの活動が制約され、上期のイベントは多くが中止あるいは延期となる中、主幹事業である教育・保育の実践論文については様々な工夫を施しながら実施いたしました。下期にはオンラインの活用など、新しい生活様式を取り込んだイベント開催にもチャレンジし、対外的な活動を再開するとともに、そのノウハウの蓄積に努めました。他方、コロナ禍をチャンスとして、余裕のできた時間を活用し、教育実践論文の部門新設や保育者の会員組織づくりなど、これからの事業活性化のための新しい施策の導入につなげることができました。こうした新しい取り組みは 2021 年度の事業計画にも生かし、盛り込んでいきます。

## 【公 1】 科学教育を中心とし、幼児および児童生徒の豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す事業

### 1. 幼児教育

#### (1) 「幼児教育支援プログラム」(保育実践論文)

2020年度の論文募集には、全国34都道府県の幼稚園・保育所・認定こども園から、136園のご応募をいただきました。残念ながら前年比17園の減少となり、4年連続の最多応募記録の更新は叶いませんでしたが、コロナ禍での感染予防対策や保育の在り方を問われた現場の混乱を考えると、充分にご努力いただいた結果と考えています。園種別で見ると、今回減少した園はほぼ保育所であり、休園もできず、新型コロナウイルス対策などの負担の厳しさが影響したのではないかと推測されます。一方で、ここ数年の傾向としては新規応募園の割合が増え、裾野が広がりをみせるとともに、継続応募園も増え、応募園が再応募するという好循環につながっていることをうかがわせます。また、論文審査(選考)については新たな対応を迫られました。従来実施していた現地訪問による調査ができず、上位入賞候補園には日頃の保育状況を録画したものを送っていただいたうえで、オンラインによるヒアリング調査を行うなど、従来とは異なる審査プロセスでの選考となりました。結果、最優秀園には「学校法人仙台みどり学園 幼保連携型認定こども園 やかまし村(宮城県)」と「世田谷区立希望丘保育園(東京都)」が選出されました。また、優秀園として審査員特別賞にも選ばれた「企業主導型保育所 にじのおうち(滋賀県)」をはじめとする8園のほか、優良園13園、奨励園47園を決定しています。

#### (2) 最優秀園実践発表会の開催

前年度、最優秀園を受賞した「福島大学教育学部附属幼稚園(福島県)」と「京都市立中京もえぎ幼稚園(京都府)」の実践発表会を開催することができました。いずれも新型コロナウイルス感染防止のため、上期の開催予定を延期したものの、集会方式による実施は見送り、初めてのオンラインによる開催といたしました。

福島大学教育学部附属幼稚園(福島県)は2020年11月7日(土)に実施、園の実践研究発表の後、事前に質問を募り、その回答をもって協議会とし、その後、論文審査委員でもある國學院大學教授の神長美津子氏による講評と保育指導要領や指導指針と関連付けたわかりやすい解説を中心とした講演をいただきました。京都市立中京もえぎ幼稚園(京都府)は1月26日(火)に開催いたしました。ここでは研究発表のあと、オンライン

会議システムの機能を活用し、通常の発表会で行っているように、グループに分かれての協議会も実施いたしました。オンラインでもストレスなく、むしろ集中して議論できたとの声もあり、双方向にコミュニケーションができる発表会となりました。研究会の締めくくりには、論文審査委員でもある東京大学大学院教授の秋田喜代美氏にご登壇いただき、「科学する心を育てる」保育と今後の乳幼児教育について、示唆に富んだ講話をいただきました。参加者が主題に繋がる保育の知見を深め、自園の保育の質の向上への意欲を高める研究会となりました。

### **(3) 優秀園実践提案研究会の開催**

前年度に「優秀園 審査委員特別賞」を受賞した「NPO 法人すずめつばさ保育園（東京都）」では 2 月 6 日（土）にオンラインにて、論文審査委員でもある玉川大学教授 大豆生田啓友氏を講師にお招きし、「審査委員特別賞実践提案研究会」を実施いたしました。ここでは新たに動画も導入されるなど、同園の実践の理解が深まる工夫がされた会となりました。講師の大豆生田先生からは同園の実践解説に加え、他園も含めた様々な実践が紹介され、「科学する心を育てる」保育の深掘りとやりがいにも触れられ、保育者のモチベーションも高まりました。

また、同じく優秀園である「千葉大学教育学部附属幼稚園（千葉県）」、「めずらこども園（大分県）」においてもそれぞれオンラインにてユニークな実践の発表会が行われました。コロナ禍で世の中の様々な研修会が中止となる中、参加者からは他園の保育者との交流ができることへの感謝が生まれ、その連帯感の中、「科学する心」理解を深め、保育の質の向上への意識を高める研究会となりました。

### **(4) 「科学する心を見つけよう」フォトコンテストの実施**

このコンテストは保護者が子どもに芽生えている「科学する心」を表情や仕草から見出し、それを育てていただくことを目的としたものです。13 回目となった今回は、252 作品の応募をいただき、50 作品が入選いたしました。今年度は、これまで限定的であった Web による応募受付を拡大したこともあり、スマートフォンで撮影された作品の応募が増えました。入選作品は、構図や写真としては評価が高くとも意図的すぎる作品よりも、子どもたちが日常生活の中で自然や現象に興味を示し、感動している姿や表情を逃さず撮影されたものが選ばれました。例年では、これらの入選作品を各地の科学館などで写真展として紹介いただいておりますが、コロナ禍による休館が相次ぎ、残念ながら展示は断念しています。なお、入選作品は、過去の入選作も含め、全ての作品を財団ウェブサイトでご覧いただけます。

## **2. 子ども科学教育**

### **(1) 「子ども科学教育プログラム」（理科教育実践論文）**

2020 年度の応募数は 177 校となり、昨年度から 6 校増加しました。コロナ禍の影響により、学校現場の混乱から減少を予想していましたが、微増という結果になりました。校種別では小学校が 15 校増加でしたが、中学校が 9 校の減少、例年よりも新規応募の学校の割合が増えているのが特徴です。また都道府県応募数も例年と多少異なる傾向がみえており、コロナ禍の対応の違いなど地域差の影響があったものと思われます。論文内容についても実践時期としてはコロナ禍前のものが多く、休校などで実践期間が短くなってしまっているものが多数見受けられました。一方で、コロナ禍における対応や工夫が盛り込まれたものが多く、中には、ウィズコロナを意識して取り組み、今後、アフターコロナでも授業を新しく工夫されたものに変容させることが期待できる実践もありました。

前述の保育実践論文と同じく、選考方法も従来とは異なる対応をいたしました。審査委員会により、最優秀校として「千葉大学教育学部附属小学校（千葉県）」と「旭市立干潟中学校（千葉県）」の 2 校が選ばれました。

また優秀校には 12 校、奨励校として 74 校がそれぞれ選定されています。

### **(2) 「子ども科学教育研究全国大会」の開催**

前年度教育実践論文の最優秀賞受賞校による「子ども科学教育研究全国大会」は、小学校（北九州市立藤松小学校・福岡県）が 10 月に、中学校（豊川市立南部中学校・愛知県）が 11 月にそれぞれ開催を計画しておりましたが、いずれもコロナ禍のため集会方式による開催は中止といたしました。その代替として、初めての試みとな

る財団ウェブサイト上での実践発表を行いました。両校の実践研究の概要・授業動画等を提供いただき、広く全国の小・中学校の教員や教育関係者などに公開、自由に閲覧いただくことで、「科学が好きな子どもを育てる」教育に関わる情報の発信を図りました。このウェブ発表には保育実践論文で最優秀園となった 2 園もコンテンツの提供をいただき、同時公開をしています。

## 【公2】 科学教育を中心として豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す児童生徒対象の体験活動事業

### 1. 科学の泉－子ども夢教室

2020年度の「科学の泉」は、オリンピックイヤーであったため日程を調整（変更）し、準備を進めていましたが、コロナ禍の影響により、開催中止といたしました。また、2021年3月に予定していた卒業生たちがあつまる「交流会」も集会による開催は見送りましたが、卒業生たちの近況報告を冊子にまとめ、送付いたしました。少しでも卒業生がつながりを感じ、交流できるきっかけの場となることを期待しています。

### 2. ソニーものづくり教室

例年1500人を超える児童・生徒にもものづくり体験の場を提供してきましたが、2020年度は対面での開催ができないため、「コロナ禍での子どもたち」を支援する施策を検討し、次のような活動を新たに実施いたしました。

- 財団公式 Facebook で子どもたちが自宅で出来るものづくりや実験の情報を記事「一緒にあそぼう」を発信
- 緊急事態宣言下の保育所や学童保育を対象に、「ソニーものづくり教室特別開催」として「きらきらワンダーメダル」の制作キットを配布、屋内での活動のコンテンツを提供
- ソニーCSRグループと共同でソニーの電子タグ（MESH）を利用したプログラミングイベントのノウハウをマニュアル化し、東北大学とソニーセミコンダクタソリューションズと共にオンラインで開催（初のオンラインものづくり教室）
- 高校生向けにも初のオンラインによるソニーエンジニア体験プログラムを開発し実施

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）や理数科、ロボット部などに所属する高校生を対象に4名で1チームを募り、ソニーのaibo開発チームと協働で、aibo連携アプリの企画開発の一連の流れを体験します。

こうした活動は多くの子どもたちのものづくり体験が中止となる中、コロナ禍でもできるコンテンツとして歓迎され、好評を博しました。ここで得た知見はコロナ禍収束後も制約された環境や条件でも実施できるコンテンツ（ノウハウ）として今後の活動に生かしてまいります。

## 【公3】 科学教育を中心とした教員の質的向上を目指す研究・研修等諸活動を支援する事業

### 1. 幼児教育

#### （1）保育者会員組織の発足

2020年6月、幼児教育の会員組織「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」を発足させ、全国の保育者、保育者を目指す学生、保育関係者を対象に会員募集を開始しました。2021年4月現在447名の方々にご入会いただいています。入会者にはメルマガによる保育情報などの発信、SNSによる会員交流、財団イベントへの先行予約などの特典を用意しており、今後は会員限定の特別研修なども提供していく予定です。この会員組織が、全国の保育者をつなげ、交流を深め、さらには互いに高め合える場となるよう、一層の会員獲得と活動の充実を目指し、「科学する心」を育てる保育に対する理解が深まり、広がっていくことを期待しています。

#### （2）「地域自主研究会」の推進

財団では、近隣地域において5園以上が集い、「科学する心を育てる保育」の向上を目指し、地域に広げることを目的とする自主的な研究会活動を奨励し、活動費の助成を行っています。2020年度は既に活動している北海道、

山梨県、長野県、大阪府、奈良県、兵庫県、大分県に加え、新潟県と福岡県でも研究グループが発足しました。コロナ禍のため、開催方法にもそれぞれ工夫が見られ、オンラインライブ、ハイブリッド型（一部集会＋オンライン）フィールドワーク、小規模開催など、地域の実情に合わせて開催されています。オンライン開催においては遠く離れた園ともつながり、地域を越えた交流も生まれています。また、自主研究会への参加が契機となり、「科学する心」の理解を

深めたいとの理由から、前述の保育者会員組織（乳幼児のための「科学する心」ネットワーク）に入会される方も増えており、施策間の相互作用も見られるようになりました。

## **2. 子ども科学教育**

### **(1) ソニー科学教育研究会（SSTA）への支援**

ソニー科学教育研究会（SSTA）は財団の理念に賛同した全国の小中学校の教員による教育研究団体です。財団では、毎年、SSTA 会員の教員を対象に、「全国特別研修会」、「ブロック特別研修会」、「若手研修会」を開催し、地域を超えた会員間の交流と「科学が好きな子ども育てる」教育の研究を深めてきましたが、2020 年度はコロナ禍の影響を受け、余儀なく、すべてを中止といたしました。一方、この機を活用し、従来の研修体系のあり方について見直し、以下のように方向性をまとめ、SSTA 理事会の承認のもと、今後導入していきます。

#### **a) 全国特別研修会**

この研修会は、SSTA 主催研修において最上位に位置づけられ、今まで、全国の科学教育の普及に貢献する教員リーダーの育成を目的に先進的な授業研究に取り組んできました。一方で、SSTA の組織強化には組織マネジメントもできるリーダーも必要とのことから、今後は従来の授業研究を通じた教員リーダーの育成だけでなく、自らの理想教育を実現できる組織リーダーの育成も目的に追加し、「トップリーダー研修会」として、カリキュラムの全面的な見直しを行いました。内容も現状把握・分析、ビジョン形成、課題発見・解決、組織マネジメントを体系的に学ぶ内容へと大幅に刷新、2021 年度にトライアル導入を予定しています。

#### **b) ブロック特別研修会**

本研修会は全国を 4 つのブロックに分けて、あらかじめ設定されたテーマに沿った授業研究を行ってきましたが、全国特別研修会との目的と内容が重複しており、課題となっていました。今回、全国特別研修会を前述のとおり、次世代のリーダー育成に特化し、このブロック研修会をもって授業研究の最上位研修会として位置づけました。あわせて、これまで全国を 4 ブロックに分けていたものを見直し、研修員がより集まりやすくするため、6 ブロックに区分けし直し、内容も「科学が好きな子どもを育てる」の趣旨に沿った授業実践テーマを提示、各支部のベストプラティスを持ち寄り、協議を通じて、支部を超えて互いに高め合うものとしてます。この研修会は 2022 年度よりスタート予定です。

#### **c) 若手教員研修会**

これまでこの研修会は全国を 5 つの地域に分け、地域を超えた若手教員の相互親睦と授業研究を目的として行ってきました。しかしながら、対象年齢の違いこそあれ、目的も内容も前述の全国特別研修会、ブロック特別研修会と違いがみえず、今回、目的と内容の再整理を行いました。結果、本研修会は各支部の活動活性化（強化）を第一の目的とし、新規会員の獲得（とくに若手教員）に重きを置いて、SSTA の魅力を訴求、支部メンバー同士がつながり、高め合う場として、各支部の創意工夫による開催とすることとしました。また、会員が少なく、活動の余力がもてない支部については周辺支部との合同研修会（クロス研修会）として開催できる仕組みを整え、支部同士でも援助し合い、全体のレベルアップを図っていきます。

以 上